



PRO SOUND誌 2012年10月号

PROSOUND TECHNICAL HANDS ON REPORT SHURE ULX-Dデジタル・ワイヤレスシステム

text by 甲田乃次

営業案内

- スピーカーの近くでも「うるさく無い音」、会場のどこでも「クリアに聞こえる音」、「ハウリングしにくいサウンド」。コンバクトで高品位、明瞭度の高い音響-PAを提供いたします。
- ホスピタリティとPro Audio技術のノウハウにより、音響施設の運用サポート・操作・管理をいたします。
- 数多くのAudio Visualの設備の設計・施工経験を元に、使いやすい、明瞭度のすぐれたシステムを構築いたします。

Sound Solution Company

ロックドア株式会社

160-0008東京都新宿区三栄町24番地 黒田ビル1F

電話03-5312-6939

FAX03-5312-6988

Http://rockdoor.co.jp

info@rockdoor.co.jp

TECHNICAL HANDS ON REPORT



●問合せ先:ヒビノインターサウンド(株)
TEL:03-5783-3880
<http://www.hibino-intersound.co.jp>

SHURE ULX-Dシリーズ

- ダイバーシティ受信機
ULXD4-AB: A1~A4型、B型共用
¥168,000 (税込)
- ハンドヘルド型送信機
ULXD2/SM58-AB: A1~A4型、B型
¥84,000 (税込)
ULXD2/SM58-JB: B型
¥84,000 (税込)
ULXD2/B58-AB: A1~A4型、B型
¥92,400 (税込)
ULXD2/B58-JB: B型
¥92,400 (税込)
ULXD2/B87A-AB: A1~A4型、B型
¥111,300 (税込)
ULXD2/B87A-JB: B型
¥111,300 (税込)
ULXD2/B87C-AB: A1~A4型、B型
¥111,300 (税込)
ULXD2/B87C-JB: B型
¥111,300 (税込)
- ボディバック型送信機
ULXD1-AB: A1~A4型、B型
¥84,000 (税込)
ULXD1-JB: 型
¥84,000 (税込)

はじめに

読者の方々がこの誌面をご覧になる頃には、特定ラジオマイクA帯ワイヤレスマイクロフォンの周波数移行に関して、700MHz帯の認定開設者である携帯電話会社との間で具体的な終了推進措置の協議もはじまっていることと思います。

また、次世代のTVホワイトスペース帯、特定ラジオマイクの標準規格の検討も深まっていることと思いますが、この度、編集部をはじめシュア・ジャパン・リミテッドならびにヒビノインターサウンドのご協力により、今話題のSHURE ULX-Dデジタル・ワイヤレス・システムをテストさせて頂きました。

ULXD2ハンドヘルド送信機

●レイテンシー2.9ms

デジタル・ワイヤレスということ、まずはじめに気になる点は遅延ですが、

デジタル・ワイヤレス・システム SHURE ULX-D

text by 甲田乃次 (ロックドア)

通常の使用ではまったく問題無い値です。テスト方法は受信機からの信号を小型のアナログミキサーに接続し、インイヤーモニターを装着して確認しましたが、辛うじて舌打ちクリック音でかすかに遅れを感じる程度でした。通常のスピーチ、歌ものでも特殊なもの以外は大丈夫だと思えます。

●大型スイッチ

ボディ中央部にあるLCDディスプレイのすぐ下に大型のスイッチがあります。MC用やインタビュー、イベントや会議、宴席、学校などの広いマーケットニーズに対応できるものと思えます(案

外、現場ではスイッチ付きのワイヤレスは必要ですよ!)。電源のロック機能やチャンネル設定のロック機能もあるので、いざという時も安心です。

●バッテリー&

バッテリーチャージャー

従来の海外メーカーのウイークポイントは充電可能なリチウムイオンバッテリーやバッテリーチャージャーのアプリケーションが国内メーカーのものに比較して、我が国のニーズ、特に設備マーケットに対して充実していなかったと感じていましたが、このプロダクトからはかなり現場のニーズに則したアイテムが



SM58ヘッドのULXD2/SM58(左)とBETA87AヘッドのULXD2/B87A。BETA58AとBETA87Cヘッドもラインナップされている

出てきたと感じました。

●RF出力切り替え

ULXD2ハンドヘルド型、ULDXD1ボディパック型、いずれもA帯、A1～A4帯は1mW、10mW、20mW、B帯、1mW、10mWにRF出力を切り替えることが可能。

会議施設やホテル、宴会場、展示会などの限られたエリアでの多チャンネル運用に於いて大変便利だと思います。現在、B帯10mW出力で10ch運用可能との事。また今後特にB帯の微弱での新しい多チャンネルプランに期待できそうです。

ULXD4ダイバーシティ受信機

●A1～A4帯・B帯受信可能

フロントパネル中央にあるジョグダイヤルとENTER、EXIT、SCANスイッチの選択で、各パラメータの設定が可能、細かいところでは、電源コネクターが金



ULXDハンドヘルド型送信機またはボディパック型送信機を2台充電できるバッテリーチャージャーSBC200-J(左)と、ULXD1/2用リチウムイオンバッテリーを8個同時に充電可能なSBC800バッテリーチャージャー

属製でネジ式のロックができるので安心です。

ULXD2ハンドヘルド・トランスミッターのゲインオフセットレンジは0から21dBありますが、ULXD4受信機のシステムゲインは60dBあり、従来のアナログシステムとはシステム内の利得の考え方が異なり、いわゆるデジタルシステムとしての考え方に変わっているものと思えます。

また、今後のデジタル伝送に対しての将来性を感じさせるものです(InterBEEあたりでの話題になりそうです)。

●プライスレンジ

SM58ヘッドのULXD2とULXD4レシーバーの組み合わせで本体価格24万円(税別)は正直驚きました。

まとめ

音楽もの、歌もの向けの製品というより、設備やその他のマーケット向けのプロダクトであると思いますが、アプリケーションも含め、システムとしてバランスが取れていると感じました。

また、将来的には受信機のタイプも増えるようですし、上位機種へのアプリケーションであるRFアナライザーのシステムとの組み合わせもできるようになるとのことですので、今後も期待したいところです。

さいごに

読者の方々にはご承知の方も多いと思いますが、特定ラジオマイクA帯の移行先であるTVホワイトスペースでは、従来のように全国共通で使用できる帯域の確保が難しく各地域ごとに指定された周波数を用いることが定められようとしております。

については、今回テストさせて頂いたような製品を上手く屋内のシールド率の高い設備等で活用頂けたらと考えます。残念ながら、全国ツアーなどのシステムや野外でのイベント、ENGなどについての710MHz～714MHz帯以外の電波環境や使用条件など、移行措置の具体的なガイドラインがまだこの原稿を書いている時点では、定まっておりませんが…。

さいごに、総務省からの話では、B帯のワイヤレスマイクは制度変更の予定は無いとのことですので、既存の古いアナログのB型をお使いでお困りの方は、ぜひこの機会に見直して頂けたらと思います。



2チャンネル・レシーバー(ULXD4D)と4チャンネル・レシーバー(ULXD4Q)が今秋に発売が予定されている